

R4・R5 年度 長崎県教育委員会

R4～R6 年度 五島市教育委員会 研究指定

研究主題

未来に向けて、気付き、考え、動く 誠の人づくり

～読解力を基盤とする授業・学習環境づくりを通して～



1 主題設定の理由

本校は、平成 28・29 年度に県・市教育委員会の指定研究を通して「誠の人」づくりに取り組んだ。「誠の人」とは、本校が育成したい資質・能力を体現した姿、目指す生徒像のことであり、先人の想いが刻まれた校訓「規律・親和・勤労」を基に作られた翁頭宣言「未来への誓い」を実践する人のことである。研究の成果として生徒の自己肯定感の高まり、ふるさとを大切に作る心や地域・社会に貢献しようという態度が育ち、各種学力調査の結果も向上された。同時に、教師や生徒が変わっても「誠の人」づくりの取組を継続し、本校の伝統を築いていくことが課題となった。

令和 4 年度からは、学校教育目標を「志を持ち、未来を創ろう～気付き、考え、動く翁中生～」と設定した。翁頭宣言の実践と継承を中心に据えることを再確認し、目指す生徒像である「誠の人」づくりに取り組んでいる。教育目標には、「目標や志をもって学力を身に付け、自分自身の力で未来を切り拓いてほしい」という願いが込められているが、激動の未来社会を生き抜くために必要な学力をいかに主体的に身に付けていくかは、現在の本校生徒の課題となっている。

そこで、「誠の人」づくりの基盤となる学力の向上を目指し、本校教育目標と連動させることで、研究主題を「未来に向けて、気付き、考え、動く 誠の人づくり」と設定した。また、読解力を基盤とする授業づくり・学習環境づくりを通して、本校で育てたい資質・能力（特に、思考力・表現力）の育成を目指すこととした。

2 研究仮説

『読解力』を基盤とした授業づくり・学習環境づくりに取り組んでいくことにより生徒の「わかる力・わかろうとする力」が高まり、各教科における基礎・基本の定着が進めば、主体的に課題を見出し（気付く）、解決に向けて手立てを考え（考える）、自分の考えを表現できる（動く）「誠の人」が育つであろう。

3 研究経過

読解力の育成を目指した教科等の研究を進めるにあたり、平成28年度から取り組んできた「誠の人」づくりを継続しつつ、生徒の学力向上を目指すことを確認し、研究をスタートさせた。継続活用しているルーブリック表（図1）の自己評価から、思いを行動につなげたり、知識を発展的に活用したりすることに課題が見られた。これらの課題を解決するために、読解力を基盤とする学習活動を進めることとし「思考力」「表現力」の育成を中心に研究に取り組むこととした。

まずは、RST（リーディングスキルテスト）を実施し、読解力における本校生徒の実態を把握した。6つの問題分野（図2）の中で、本校生徒は、「係り受け解析」「照応解決」「イメージ同定」の分野で課題があることがわかった。そこで、これらの分野に重点を置き、本校が考える読解力を定義するとともに、RS（リーディングスキル）の視点を生かした読解力を基盤とする授業づくりに取り組んだ。

五島市立翁頭中学校 育成したい資質・能力判断基準表（ルーブリック表）図1

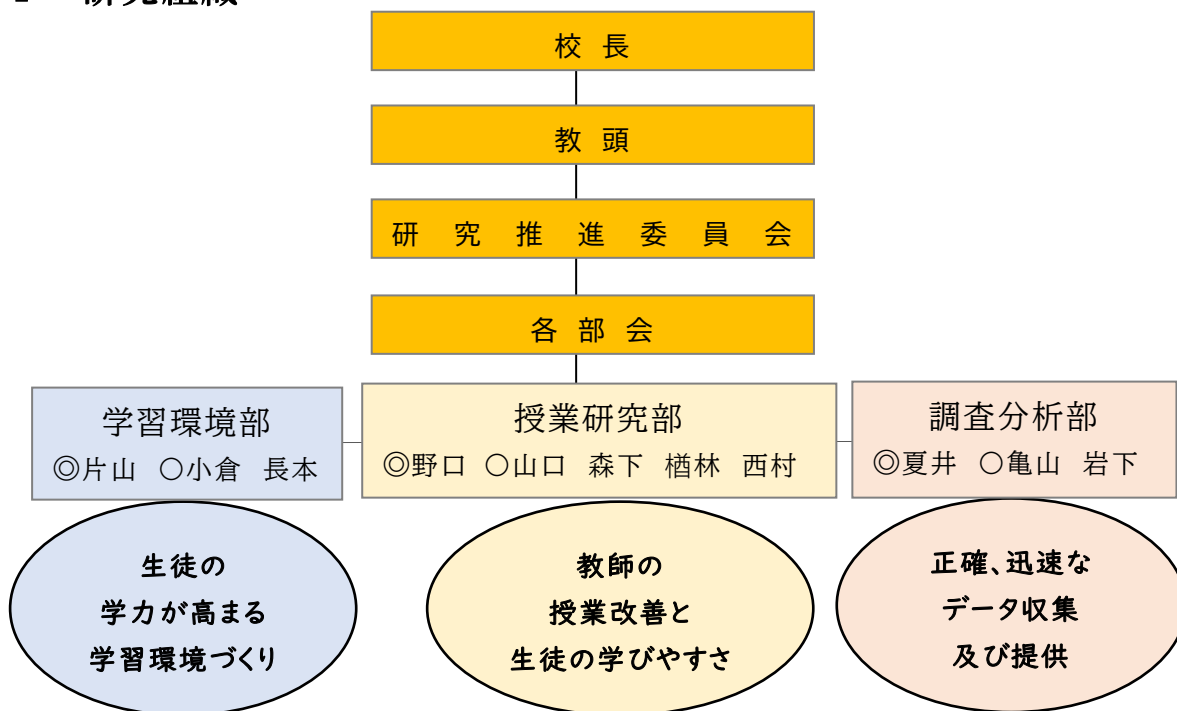
育成したい資質・能力		4段階で評価			レベル1	レベル2	レベル3	レベル4 (これぞ誠の人)
A 思考力	主体的に課題を見出し、解決へ向けよりよい手立てを考える力 (規律)	ア 学校や学級などの課題に気づいた	他者の協力を得て、課題を発見することができる。	自ら課題を見出し、解決の手立てを考えることができる。	自ら課題を見出し、課題解決へ向け、よりよい手立てを考えることができる。	周囲の課題に気づき、解決のためによりよい手立てを考え、仲間に積極的に働きかけることができる。		
		イ どのようにしたら解決できるかを考えた						
		ウ 考えたことを仲間に積極的に伝えた						
B 活用能力	知識・技能を身につけ、実生活で活用する力 (規律・親和)	ア たくさんの知識や技能を身につけた	他者の協力を得て、知識・技能を身につけようとする事ができる。	自ら知識・技能を身につけようとし、基礎的な事項が身につけている。	知識・技能を身につけており、実生活に活用しようとする事ができる。	知識・技能を積み重ね、新しい方法やアイデアを生み出し、実生活や社会に役立てることができる。		
		イ 新しい方法やアイデアを生み出した						
		ウ 普段の生活に役立てることができた						
C 判断力	自他を愛し、仲間や故郷のために行動する力 (親和)	ア みんなと仲良くできた	他者の協力を得て、自他の良さを理解しようとする事ができる。	自他の良さを認め、仲間と協力することができる。	自他の良さを認め、仲間や故郷のために自ら行動することができる。	自他を愛し、仲間・故郷・社会のために何が出来るか考え、労を惜しまず、行動することができる。		
		イ 友だち・五島・社会のために何が出来るかを考えた						
		ウ ボランティア精神をもって取り組んだ						
D 表現力	物事をよく考え、正しく判断し、自分の考えを表現する力 (勤労)	ア よく考えて正しく判断した	他者の協力を得て、物事をよく考えたり、判断したりしようとする事ができる。	自ら情報を整理し、判断することができる。	自ら情報を整理し、正しく判断し、自分の考えを表現することができる。	自ら情報を整理し、正しく判断し、自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができる。		
		イ 自分の考えをみんなに伝えようとした						
		ウ わかりやすく伝えるために工夫した						
E 継続力	目標達成に向けて、粘り強く取り組み続ける力 (勤労)	ア 困難なことにも挑戦した	他者の協力を得て、目標を理解し、自分ができることをやってみようとする。	目標に向かって、自分ができることに取り組むことができる。	目標達成に向け、粘り強く取り組み続けることができる。	困難な状況でも、試行錯誤しながら、目標達成に向け、粘り強く取り組み続けることができる。		
		イ 目標達成の方法を考え、実際にやってみた						
		ウ 粘り強く取り組み続けた						

リーディングスキル 6 分野 7 項目 (図 2)

係り受け解析	文の基本構造(主語・述語・目的語など)を把握する力	・教師が意図的に主語や述語、目的語などを問う。
照応解決	指示代名詞が指すものや、省略された主語や目的語を把握する力	・「それ」「これ」などの、指示代名詞が示す言葉や内容について、線を引くなどして読み取らせ、全体で確認する。 ・省略された主語や目的語を補うように指示する。
同義文判定	2文の意味が同一であるかどうかを正しく判定する力	・複数の意見や考え方が同じかどうか、グループで話し合わせる。 ・自分の意見や考え方がモデルと同じかどうか考えさせる。
推論	既存の知識と新しく得られた知識から、論理的に判断する力	・既習事項等を根拠として新しい知識を獲得させたり、考察させたりする。 ・文章中に書かれている内容等について、根拠を明確にして自分の考えを述べさせる。
イメージ同定	文章を図やグラフと比べ、内容が一致しているかどうかを認識する力	・文章から読み取ったことを絵や図、表などを用いて整理させる。 ・図や表、グラフから読み取ったことを、言葉や文章で表す活動に取り組みさせる。
具体例同定 (理数と辞書)	言葉の定義を読んで、それと合致する具体例を認識する力	・言葉の定義や意味を正しくおさえた上で、考えたり話し合ったりする活動に取り組みさせる。 ・様々な事例や自分の書いた文章が、定義に合っているか確認させる。

【長崎県読解力育成プランより】

4 研究組織



5 研究構想図

校訓 規律・親和・勤労

学校教育目標 志を持ち、未来を創ろう ～気付き、考え、動く翁中生～

翁頭宣言「未来への誓い」

思いやりの心を持ち、仲間と
助け合います。【親和】

正しい道をまっすぐに
歩きます。【規律】

誠の人

勉学に励み、心身の鍛錬に汗
を流し続けます。【勤労】

研究主題 「未来に向けて、気付き、考え、動く 誠の人づくり」

～読解力を基盤とする授業・学習環境づくりを通して～

研究仮説 「読解力」を基盤とした授業づくり・学習環境づくりに取り組んでいくことにより、生徒の「わかる力・
わかるとうとする力」が高まり、各教科における基礎・基本の定着が進めば、主体的に課題を見出し（気付く）、
解決に向けて手立てを考え（考える）、自分の考えを表現できる（動く）誠の人が育つであろう。

育てたい資質・能力（誠の人づくりと連動）

- (A) **思考力**：主体的に課題を見出し、解決へ向けよりよい手立てを考える力（規律）・気付き、考える
- (B) **活用力**：知識・技能を身に付け、実生活で活用する力（規律・親和）
- (C) **利他力**：自他を愛し、仲間や故郷のために行動しようとする力（親和）
- (D) **表現力**：物事をよく考え、正しく判断し、自分の考えを表現する力（勤労）・動く
- (E) **継続力**：目標達成や課題解決に向けて、粘り強く取り組み続ける力（勤労）

翁頭中 ver. 「読解力」

教科の枠を超えて、各教科の土台となる能力

- ▣文章を正確に理解できる
- ▣相手の伝えたいことがわかる
- ▣文章と表、グラフ等の関係を捉えることができる

翁中スタンダード：読解力を
基盤とする授業づくり

生徒の実態を踏まえた指導と学びの共通実践

- ▣係り受け解析（主語・述語がわかる）
- ▣照応解決（「これ」「それ」がわかる）
- ▣イメージ同定（表やグラフと文の関連がわかる）

取組

【学習環境部】生徒の学力が高まる学習環境づくり

- ▣読解力スキルアップ
- ▣授業心得
- ▣ループリック評価

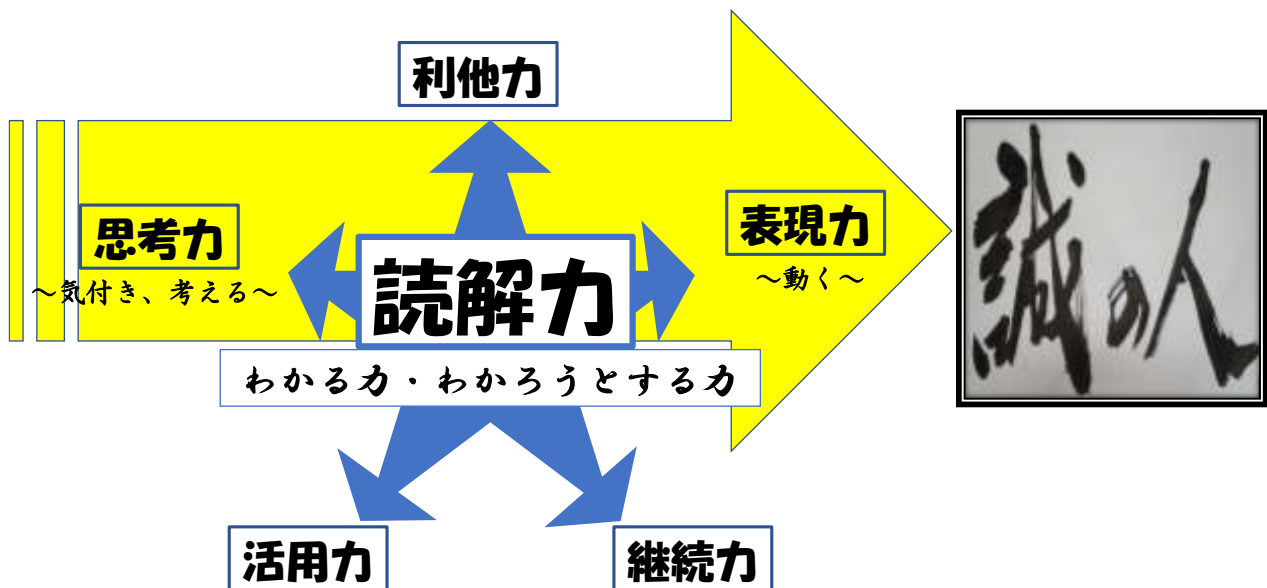
【授業研究部】教師の授業改善と生徒の学びやすさ

- ▣翁中スタンダード
- ▣学習指導案形式の検討
- ▣研究授業実施計画・指導案検討
- ▣授業研究方法の検討

【調査分析部】正確、迅速なデータ収集及び提供

- ▣RSTの解析
- ▣各種学力検査のデータ提供
- ▣「読み方レスキュー」の集計・分析
- ▣学習に関するアンケートの実施

研究構想イメージ図 ～5つの育てたい資質・能力と読解力との連動～



確かな学力を主体的に身に付けていくことは、本校生徒の課題である。そのため、「育てたい資質・能力」の中の「思考力」「表現力」は、もっとも力を入れて育みたい資質・能力といえる。具体的には、「生徒自らが主体的に課題を見いだし、解決への手立てをしっかりと考えられること」、そして「物事をじっくりと考えた上で判断し、自分の考えとして、相手意識を持って表現できること」を目指している。

これらの力を身に付けさせるべく、読解力を基盤とした授業づくりを実践していくこととした。授業づくりを始めるにあたって、まずは、『翁頭中の考える「読解力」とは何か？』について、全職員で共有し合い、生徒の実態に即して、本校における「読解力」を下のように定義した。

翁頭中 ver. 『読解力』とは？

- ① 文章を正確に理解できる
- ② 相手の伝えたいことがわかる
- ③ 文章と表、グラフ等との関係を捉えることができる

6 研究内容

【授業心得】 始業前に落ち着いた環境づくりをし、授業中は「話す・聞く」態度に注意して「表現力」UPを目指す。

準備	①2分前着席・準備、30秒前黙想。
挨拶	②先語後礼を意識して、元気よく挨拶をする。 <small>起立したら椅子を机の中に入れて挨拶「起立、おはよう、おはよう、おはよう」「おはようございます」「おはようございます」の挨拶も、着席の号令がかかるまで動かない。</small>
返事	③指名されたら「はい」とはっきり返事をして立つ。
挙手	④手をまっすぐあげる。
発表	⑤みんなに伝わるよう、語尾まではっきり言う。
傾聴	⑥話をしている人の方を体ごと向いてしっかり話を「聴」く。
重点目標	今週は①から⑥のこれを重点目標とします。帰りの会で達成度を聞きます。

【読み方レスキュー】 朝の帯活動7分間で様々な分野の読解問題を解き、解説を読んで読解力のスキルUPを図る。



【ループリック表】 「誠の人」にどれだけ近づいているか毎月自己評価。行事とリンクさせることで見通しを持たせた。5つの資質・能力のうち、思考力・表現力に力を入れた。結果は右肩上がり。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
総合	28	34	28	49	39	50	38.3
基礎	28	36	40	36	42	48	38.2
応用	38	40	40	42	43	43	41.0
思考	23	34	30	28	25	31	26.8
表現	40	43	48	49	47	46	45.5
合計	26	28	27	36	37	41	43



【翁中スタンダードを意識した授業実践】

- ・RSの3つの視点を意識「主述の関係・指示語・表やグラフと文章の関連」がわかる場面を仕組む。
- ・「教科書読解シート」を活用した研究授業及び、授業公開WEEKの設定により、各教科の実践共有・情報交換をする。

【各種調査と分析】

- ・RST（リーディングスキルテスト）結果分析
- ・読み方レスキューの集計：文章の読み方、話の聞き方にプラスの効果あり。
- ・生徒・職員アンケート調査：生徒：授業の理解度、教師：授業改善

成果

- (1) 「わかる力・わかろうとする力」が高まりつつある。
- (2) 各教科における基礎・基本の伸びが見え始した。
- (3) 生徒が落ち着いて学習に取り組めるようになってきた。
- (4) 生徒の実態に応じた教師の授業改善が進んでいる。

課題

- (1) 一部の生徒においては、基礎・基本の定着が不十分である。
- (2) 個別指導・読み書きへの抵抗感をなくす支援の在り方について、さらなる研究が必要である。
- (3) 自分の考えを表現したり説明したりする力を高める必要がある。